

# [ - 4 ] 偏心集中荷重をうける単純支持円板の解について

東京大学生産技術研究所 正員 佐武正雄

偏心に集中荷重をうける円板の解は、固定支持の場合容易に解かれているが、単純支持の場合は可なり複雑である。本文はこの場合の解について考察する。

円板の半径を  $a$ 、剛度を  $D$  とし、荷重点の偏心距離を  $d$ 、 $\alpha = \log \frac{d}{a}$  とおき、 $p(z) = \log \frac{c+z}{c-z}$  ( $c = \frac{a^2-d^2}{2d}$ ) の実数部、虚数部

$$p_1 = \tanh^{-1} \frac{2cx}{x^2+y^2+c^2}, \quad p_2 = \tanh^{-1} \frac{-2cy}{x^2+y^2+c^2}$$

を基函数とする曲線座標 (双極座標) は図 1 に示すような円群からなり、丁度問題に適応した曲線座標を与え、円板の周辺は  $p_1 = \alpha$ 、荷重点は  $p_1 = -\infty$  に対応している。この座標に関する断面モメント、シヤの成分は境み  $\varepsilon w$  とすれば

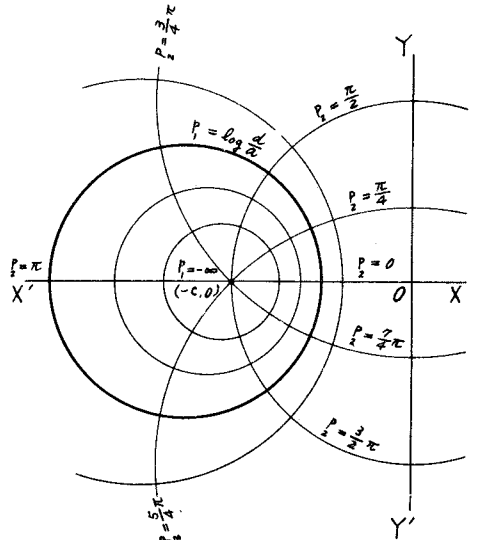


図 1

$$\left. \begin{aligned} M_{(11)} &= -D \left\{ \frac{1+\nu}{2} \Delta w + \frac{1-\nu}{2} |p'| \{ (\partial_{11} - \partial_{22})(|p'|w) - |p'|w' \} \right\} \\ M_{(22)} &= -D \left\{ \frac{1+\nu}{2} \Delta w - \frac{1-\nu}{2} |p'| \{ (\partial_{11} - \partial_{22})(|p'|w) - |p'|w' \} \right\} \\ M_{(12)} &= -D(1-\nu) |p'| \partial_{12} (|p'|w) \end{aligned} \right\} \text{----- (1)}$$

$$\left. \begin{aligned} Q_{(1)} &= -D |p'| \partial_1 w \\ Q_{(2)} &= -D |p'| \partial_2 w \end{aligned} \right\} \text{----- (2)}$$

となる。こゝに、 $|p'| = \frac{1}{c} (\cosh p_1 + \cos p_2)$ 、 $\Delta = |p'|^2 (\partial_{11} + \partial_{22})$  とある。また、換算シヤは

$$V_{(1)} = Q_{(1)} + |p'| \partial_2 M_{(12)} \text{----- (3)}$$

とかけた。

双極座標における  $\Delta^2 w = 0$  ----- (4) の一般解は

$$w = \frac{1}{|p'|} f_n(p_1) \frac{\cos n p_2}{\sin n p_2}$$

とおくことができる。こゝに、 $f_n(p_1)$  は  $f_n''' - 2(n^2+1)f_n'' + (n^2-1)f_n' = 0$  を満足しなければならない。従つて

$$\left. \begin{aligned} n=0 : & f_0 = (A_0 p_1 + B_0) e^{p_1} + (C_0 p_1 + D_0) e^{-p_1} \\ n=1 : & f_1 = A_1 e^{2p_1} + B_1 e^{-2p_1} + C_1 p_1 + D_1 \\ n \geq 2 : & f_n = A_n e^{(n+1)p_1} + B_n e^{-(n+1)p_1} + C_n e^{(n-1)p_1} + D_n e^{-(n-1)p_1} \end{aligned} \right\} \text{----- (5)}$$

となり、(4) の一般解は

$$w = \sum_{n=0}^{\infty} w_n + \sum_{n=1}^{\infty} \bar{w}_n, \quad w_n = \frac{1}{|p'|} f_n(p_1) \cos n p_2, \quad \bar{w}_n = \frac{1}{|p'|} \bar{f}_n(p_1) \sin n p_2 \text{----- (6)}$$

とかくとこができる。われわれの問題においては鏡みの対称性から  $\bar{w}_n$  は用いない。また、荷重点の鏡みが有限確定であることから  $C_0 = 0, B_1 = 0, B_n = D_n = 0 \quad (n \geq 2) \dots\dots (9)$  を得る。従って、解として  $w_n$  から  $w_m$  までの項の和を用いれば、未知定数の数は 3, 6, 8, ...  $2n+4$  となる。 $w_n$  による断面モーメント等は次のようにかける。

$$\begin{aligned}
 M_{(11)} &= -\frac{D}{c} \left[ \frac{1}{2} \{ f_n'' + (n-1)(1-\nu) f_n \} \cos(n+1) p_1 + \{ f_n'' \cosh p_1 - (1+\nu) f_n' \sinh p_1 - \nu(n-1) f_n \cosh p_1 \} \cos n p_1 \right. \\
 &\quad \left. + \frac{1}{2} \{ f_n'' - (n+1)(1+\nu) f_n \} \cos(n-1) p_1 \right] \\
 M_{(22)} &= -\frac{D}{c} \left[ \frac{1}{2} \{ \nu f_n'' - (n-1)(n-\nu) f_n \} \cos(n+1) p_1 + \{ \nu f_n'' \cosh p_1 - (1+\nu) f_n' \sinh p_1 - (n^2-1) f_n \cosh p_1 \} \cos n p_1 \right. \\
 &\quad \left. + \frac{1}{2} \{ \nu f_n'' - (n+1)(n+\nu) f_n \} \cos(n-1) p_1 \right] \\
 M_{(12)} &= D(1-\nu) n f_n' |P| \sin n p_1 \\
 Q_{(1)} &= -\frac{D}{c} |P| \left[ \frac{1}{2} \{ f_n''' - (n-1)^2 f_n' \} \cos(n+1) p_1 + \{ f_n''' \cosh p_1 - f_n'' \sinh p_1 - (n^2+1) f_n' \cosh p_1 - (n^2-1) f_n \sinh p_1 \} \cos n p_1 + \frac{1}{2} \{ f_n''' - (n+1)^2 f_n' \} \cos(n-1) p_1 \right] \\
 Q_{(2)} &= \frac{D}{c} |P| \left[ \frac{1}{2} \{ f_n''' - (n-1)^2 f_n' \} (n+1) \sin(n+1) p_1 + \{ f_n''' \cosh p_1 - 2 f_n'' \sinh p_1 - (n^2-1) f_n \cosh p_1 \} n \sin n p_1 + \frac{1}{2} \{ f_n''' - (n+1)^2 f_n' \} (n-1) \sin(n-1) p_1 \right] \\
 V_{(1)} &= -\frac{D}{c} |P| \left[ \frac{1}{2} \{ f_n''' - \{ (2n^2-n+1) - n(n+1)\nu \} f_n' \} \cos(n+1) p_1 + \{ f_n''' \cosh p_1 - f_n'' \sinh p_1 - \{ (2n^2+1) - n^2\nu \} f_n' \cosh p_1 - (n^2-1) f_n \sinh p_1 \} \cos n p_1 \right. \\
 &\quad \left. + \frac{1}{2} \{ f_n''' - \{ (2n^2+n+1) - n(n-1)\nu \} f_n' \} \cos(n-1) p_1 \right]
 \end{aligned} \tag{8}$$

単純支持の場合の境界条件を固定支持の場合にたらし  $p_1 = \alpha$  において

$$w = 0 \dots\dots (9) \quad M_{(11)} = 0 \dots\dots (10) \quad -P = \oint V_{(1)} ds = \oint \frac{1}{|P|} V_{(1)} d p_1 \dots\dots (11)$$

の3個としてみる。(Pは集中荷重) この場合、解として  $w = w_0 + w_1$  をとれば十分である。何となれば、未知定数の数は6個で、方程式の数も(9),(10)式の  $\cos ip_1$  の係数を0とおくことによつて得られる5個と(11)式の計6個となるからである。この場合の解は

$$f_0 = \frac{cP}{4\pi D \delta} \{ \beta \sinh(\alpha-p) + 2(1+\nu) \sinh \alpha e^{p-\alpha} (\alpha-p) \}, \quad f_1 = \frac{cP}{\pi D \delta} (\alpha-p)$$

ただし、 $\beta = \frac{(3+\nu)\alpha^2 + (1-\nu)d^2}{\alpha d}$ ,  $\delta = \frac{(1+\nu)\alpha^2 + (3-\nu)d^2}{\alpha^2}$  となる。しかし、周辺における反力を計算してみるとモーメントの釣合条件が成立してゐないことが分る。不釣合のモーメントの大きさは  $M = 2\alpha \frac{\alpha^2 - d^2}{(1+\nu)\alpha^2 + (3-\nu)d^2} P$  であり、これは荷重点に作用してゐると考へる。  $d \neq 0$ , または  $d = \alpha$  の場合には  $M$  は小となり、上記の解を近似解として用いることができる。

モーメントの釣合条件は  $p_1 = \alpha$  において  $-Pa = \oint \frac{1}{|P|} V_{(1)} d p_1 \dots\dots (12)$  であり、これを境界条件に加えなければならぬ。解として  $w = \sum w_i$  のみ項までとるとすれば、方程式の数は  $(2n+5)$  個となり、未知数の数は  $(2n+4)$  個であるから有限の項数では解は求められず無限級数となる。無限級数解を求めるときは差分方程式を応用することになるが、実用的には最初の数項までとつて解を近似的に求めることもできる。この際は(10)式の  $\cos ip_1$  の係数の中  $\cos(n+1) p_1$  のものをだけ0とおかない。従つて周辺には

$$M_{(11)} = -\frac{D}{2c} f_n''(\alpha) \cos(n+1) p_1$$

という残留モーメントが存在することになるが、項数  $n$  を大きくするとによりこの残留モーメントの値は小さくなることのできる。